

と再生し続けてました〔……〕ひたすら流して、寝てる間もちろんです！

寝てる間はオタクの時間なので。オンライン講義はPCで全部受けて、スマホは放置したいので。〔ginieでは〕再生回数、自分がどれだけ再生したのが見れるので、やりがいがあるっていうか。「やったー」みたいな（笑い）。すごい、頑張ったなって思いました、充電を犠牲にしながら。無音で流して〔……〕工作中とかだったりしたんで（C氏 2020/10/29）

彼女はこのように睡眠時間、大学のオンライン講義中、アルバイト中と24時間スミンをしていたという。「寝てる間はオタクの時間」という発言は、深夜は一般のユーザーによるストリーミング再生が減るが減るため、ファンの一斉のスミンによってアイドルがリアルタイムチャート上位にのぼりやすいということを含意している。

一方、G氏は、“スマホ2台持ち”のため、一台はつね家に置き、消音で再生し続けていたという。

それ〔ファンがシェアするリスト〕通りに入れてるんで。流しっぱ、流しっぱでしたね。もう一個のケータイで。Wi-Fiがないと使えない、契約切れてるケータイで、持ち運びしなくていいので。家に置きっぱでリピート機能で〔……〕曲はスミンしてたら聴かないかな、〔曲を聴きたいときは〕使ってる方のケータイで流します。〔……〕なんだろ、なんか、外野になりたくないっていうか、自分も

ちゃんと参戦したいっていうか（G氏 2020/11/13）

注目すべきは、24時間再生し続けているもののスミン中に「曲は聴かない」ということだろう。彼女に限らず、他のインフォーマントもみな“無音で流す”という。これらの語りには現れているのは、見過ごされがちなデジタル音源視聴行動の多様性である。通常、音楽ストリーミングサービスは音楽の視聴を目的とするはずだが、スミンというコンテクストにおいては「無音で流す＝回す」、つまり“聴かない音楽”の存在を前提とした「音楽再生の自己目的化」傾向が見られるのである。

このように、“消音モード・バックグラウンド・ループ再生”を可能にする音楽アプリの技術特性は、可処分時間にとらわれず遂行される特殊なファン活動としてのスミンを可能にする。ただし、単純な技術決定論に回収することは禁物だ。「能動／受動」では捉えきれない営みは、情報基盤によってのみ支えられているわけではない。Cが「すごい、頑張ったなって思いました」と述べ、冒頭のアイドルがファンの「苦労」を労ったように、スミンは（その良し悪しは差し置くとして）、一つの目的に向かうグローバルなファンの協働の体現に他ならないのである。

## 5. おわりに

以上、本稿はデジタル空間で遂行されるファン活動の一端を明らかにするために、K-POPファンへのインタビュー調査